

特集 農業で 生きる

～これが私の生きる道～



かずや
前田 和也 (緑)

プロフィール

平成6年生まれ。緑出身、在住。柑橘栽培・水稲栽培。高校3年時に将来の職業として農業を選択し、愛媛県立農業大学校（松山市）に進学。20歳で地元に戻り、祖父の農地を引き継いで就農。現在は河内晩柑や紅まどんな、甘平、ポンカン、温州みかん、レモンなど多くの品種を栽培している。体を動かすことが好きで、バレーボールやサッカー、テニスなどが趣味のスポーツマン。

皆さんは農業に対してどんなイメージを持っていますか？楽しそうとか、やりがいがありそうとか。または、しんどそうとか、休みがなさそうとか、経営が厳しそうとかでしょうか。

人それぞれ、色んなイメージがあると思いますが、町内には生き生きと農業に取り組んでいる若手農業者がたくさんいます。気になる農業の現状や経営面、将来の展望などについて、3名の方に話を伺いました。

(取材日：8月2日)



紅まどんなを栽培するために建てたハウスの前で防除作業をする前田さん。若木の場合は週に一回は行きます。

柑橘栽培の魅力

柑橘農家の前田和也さん。もともと農業を仕事にすることは考えておらず、別の道に進むつもりでした。しかし、「自分の家の土地を荒らすのは嫌だな」という考えが生まれ、農業を志しました。

前田さんが柑橘栽培に魅力を感じるのは、苗木から育てた木が収穫を迎えるときです。「柑橘は実がなるまでに5年、6年はかかるんですよ。頑張つて育てて、初めて実がなつて収穫

したときはやっぱり嬉しいです」と笑顔を見せます。

農業は自己責任

自分のペースで仕事を進められる点が農業の良いところだと考えています。「何か予定があれば、自分で仕事を頑張ることで都合を付けられます。融通が利くし、自分の好きなようになります」と語ります。

しかし同時に、それは責任が伴うことも意味します。「全部自己責任なんですよ。大雨や台風、寒波などで被害を受けて収入がなくなつても自己責任です。自然相手なので、一生懸命やつてもどうしようもない部分もあります」と話します。

これからは紅まどんな

農業大学校で紅まどんなの栽培について学んだ経験を活かし、町内でまだ生産農家が少ないこの品種の栽培に取り組んでいます。

「町内では栽培面積は少ないですが、食感が良くて味は申し分ない。年内に収穫できるので



としま
三宅 寿美 (小山)

プロフィール

昭和 47 年生まれ。愛知県名古屋市出身、東小山在住。四万十川の川下りに魅せられて田舎暮らしを決意。38 歳で仕事を辞めて一家 4 人で愛南町に移住。当初は農業に全く関心がなかったが、近所の農家の農作業を手伝ううちに農業の魅力に気付き就農。現在はブロッコリーを中心にハートオニオンやスイートコーンを栽培している。アウトドア派で趣味はカヌーとスノーボード。



よしひこ
太田 吉彦 (増田)

プロフィール

昭和 56 年生まれ。増田出身、在住。水稻栽培・林業経営。幼い頃から祖父母や両親が農業・林業に従事する姿を見て育つ。県外の大学を卒業後、宇和島市の自動車ディーラーで 4 年間営業を務めるが、将来の自分を想像したときに農業をやってみた方が面白いのではと考えて退職。森林組合の作業員を経て就農し、現在は農業と林業を本人曰く“半々”で取り組んでいる。趣味は旅行。



太田さんが生産するお米の品種はヒノヒカリ。味が良くて食べたときの粘りがあるのが特徴だと言います。

他の中晩柑と時期も競合しない」と強みを強調します。
前田さんが育てる紅まどんなは 4 年目に入ったところで、まだ収穫を迎えていませんが、「来年から実をならせようと思っているので、まずはこの木を太らせて、それで収入が上がっていけば」と力を込めました。

農業と林業を“半々”

増田地区・八人組の集落で水稻栽培と林業を両立している太

田吉彦さん。田植えや稲刈りなど農作業が忙しい時期には一時的に林業を休止しますが、それ以外の時期は両方行っています。「田植えの後は水を入れた草を刈ったりすれば良いのですが、田が一か所に集まっているので、田廻りに時間がかかりません。冬には堆肥を入れて土づくりをしたり、猪対策の柵を張ったりと、繁忙期にはできないことをしています」と自身の仕事について語ります。

消費者の声が励みに

町内で生産される米の多くはコシヒカリですが、太田さんはヒノヒカリを生産しています。知名度やブランド力では敵いませんが、個人を中心に販路を確保しています。
「町内や宿毛市などでの個人販売を主に、一部は産直施設でも販売しています。買っていたいた方の口コミなどで徐々に販路が広がりました。消費者の声が励みとなり、味にこだわって米づくりをしています」と力を込めます。



経営は小さな積み重ね

両親から農業は厳しいと言われてきた太田さん。それでも今は農業でやっていけるといふ手応えを感じています。「結局小さなことの積み重ねだと思えます。一枚の田で収量が一袋、二袋多くなれば、わずかですが収入が増えます。肥料や農薬にしても、ただ説明書通りにやるのではなくて、稲の生育状況を見て病気が少ない場所では農薬を少な目にするなど、工夫できることがあります。親から教えら



三宅さんと次男の心快くん(一本松中1年)。山が好きで、お母さんが農業を始めたのは嬉しいと言います。

れることもあれば、自分で気付くこともあります」と言います。

自分の米は直接消費者に届けたいため、水稲栽培の規模は現状維持で考えていますが、「林業の方はもうちよつとやれるのかな」と意欲を見せました。

名古屋のOLが、農業？

東小山でブロッコリーの栽培に取り組んで4年目になる三宅寿美さん。38歳までOLをしていたという異色の経歴の持ち主です。

「田舎暮らしがしたいと思い、真剣に住む場所を探し始めてから半年後にはもう移住してしました」と本人が話すように、積極的に思い立ったら即行動という性格です。

もともと農業をするために移住した訳ではないため、初めは農業に全く関心がなかったと言います。しかし、移住後に幾度かの転職を経験する中で、近所の農家の農作業を手伝う機会を得ます。そのときに農業の魅力を感じ始めました。「日焼けしようが何しようが、これだったら耐えられる」と思い就農を決意。すぐに行動に移しました。

畑、朝日が私の喜び

三宅さんは出荷があまり好きではないと言います。「出荷は収入につながるので楽しみだという方もいるのですが、何せ時間には追われるし、野菜がしなびてしまわないように早く持つて行かないと思うと気が焦る」というのがその理由です。

一人で生産から出荷までをこなすため、忙しい時期には作業に一日がかりとなり、昼食もとれないほどです。また、ブロッコリーは病気になることも多く栽培が難しいため、様々な品種を植えてリスクを抑えるなど、試行錯誤を繰り返しています。

それでも農業にこの上ないやりがいを感じています。「種を撒いて、苗がびゅっびゅっびゅつと出る。それを草のない畑に植えて朝日が当たったときの光景が何ともきれいです。雨が上がった次の日とかは真っ白で本当にきれい。農業には苦勞も多いけど、やりがいがあるって楽しいです」。そう話す三宅さんは、これからも意欲十分に農業を続けていくつもりです。

前田さんが活用

果樹経営支援対策事業 (優良品目・品種への転換)

農地の転換元(例えば古い品種・老木等)を伐採・伐根し、その跡地に産地が自ら策定した計画(産地計画)に位置づけられた振興品目・品種へ改植する際に補助を受けられる制度。同一年度内に一定面積以上の改植・新植を実施した場合は、未収益期間の栽培管理経費の支援を受けられる「果樹未収益期間支援事業」も設けられています。

問合せ 愛南町農業支援センター TEL0895-72-7311

3人とも活用

農業次世代人材投資事業 (経営開始型)

新たに農業に取り組む方(45歳未満)の就農意欲喚起と就農後の定着を図るため、経営が不安定な就農初期段階に経営が軌道に乗るまで(最長5年間)、年間最大150万円の資金を交付する制度です。交付を受けるためには認定新規就農者であることなど一定の要件があり、役場では随時相談を受け付けています。

問合せ 愛南町役場農林課 TEL0895-72-7311

協力隊レポート

地域おこし協力隊 中本 健仁

肌で感じる事ができた農業の魅力と現実

今年の4月末から、地域おこし協力隊として農業支援センターに在籍し、愛南町の農業振興のために活動を行っています。3年後には自らの生業を見つけることを目指しています。

今回初めて、愛南町の若手農業者の方3名に様々なお話を伺いました。3名に共通しているのは、「農業は良くも悪くも自分の頑張り次第」と考えられているところです。もちろん自然相手の仕事なので、人間の力ではどうにもできないこともあるのですが、それを自分の中で咀嚼し、真摯に農業に向き合っていらっしゃいました。これまでサラリーマンしか経験していない私にとっては、ものすごく格好良かったです。

一方で、農業の担い手・後継者不足が問題である中、愛南町に全く縁がない外部の方を呼び込むには、想像以上に大きなハードルがあることも実感しました。具体的には「農地」、「初期費用」、「農業が軌道に乗るまでの収入」の3つです。この3つについて一步踏み込んだレベルで受入体制を考え、農業の魅力とともに情報発信を行っていかなければならないと気付かされました。



農林課・農業支援センター・農業委員会の職員がお待ちしています！

農業をしている方・してみたい方

農業に関して聞いてみたいこと、相談などはありませんか。役場にワンストップ窓口を設け、相談対応を行っています。内容に応じて関係機関にもおつなぎしますので、お気軽にお問合せください。

相談窓口：愛南町役場本庁2階 農業支援センター

TEL0895-72-7311

(農林課・農業支援センター・農業委員会共通)

みんなが活用(してほしい)

あいなん農林業ネット



ホームページ

愛南町の農林業を盛り上げ、応援するために愛南町役場が設けたウェブサイト。農林業に携わっている方に向けた情報発信や支援・補助制度の紹介のほか、新規就農を考えている方への情報、求人情報などを幅広く提供しています。また、日々の農林業に関する旬の情報などはFacebookで発信しており、意見交換や交流の場となることも目指しています。

URL <http://www.town.ainan.ehime.jp/norin/>

太田さんが活用

「緑の雇用」事業

林業の新規就業者を確保・育成するために、審査により認められた森林組合等の林業事業体に採用された方に対し、同事業体を通じて講習や研修を行い、キャリアアップを支援するための制度です。就業年数に応じて研修の内容をステップアップさせ、将来の担い手になるために必要な技能が身に付けられるよう体系的な研修プログラムが作られています。

問合せ 南宇和森林組合 TEL0895-72-1842